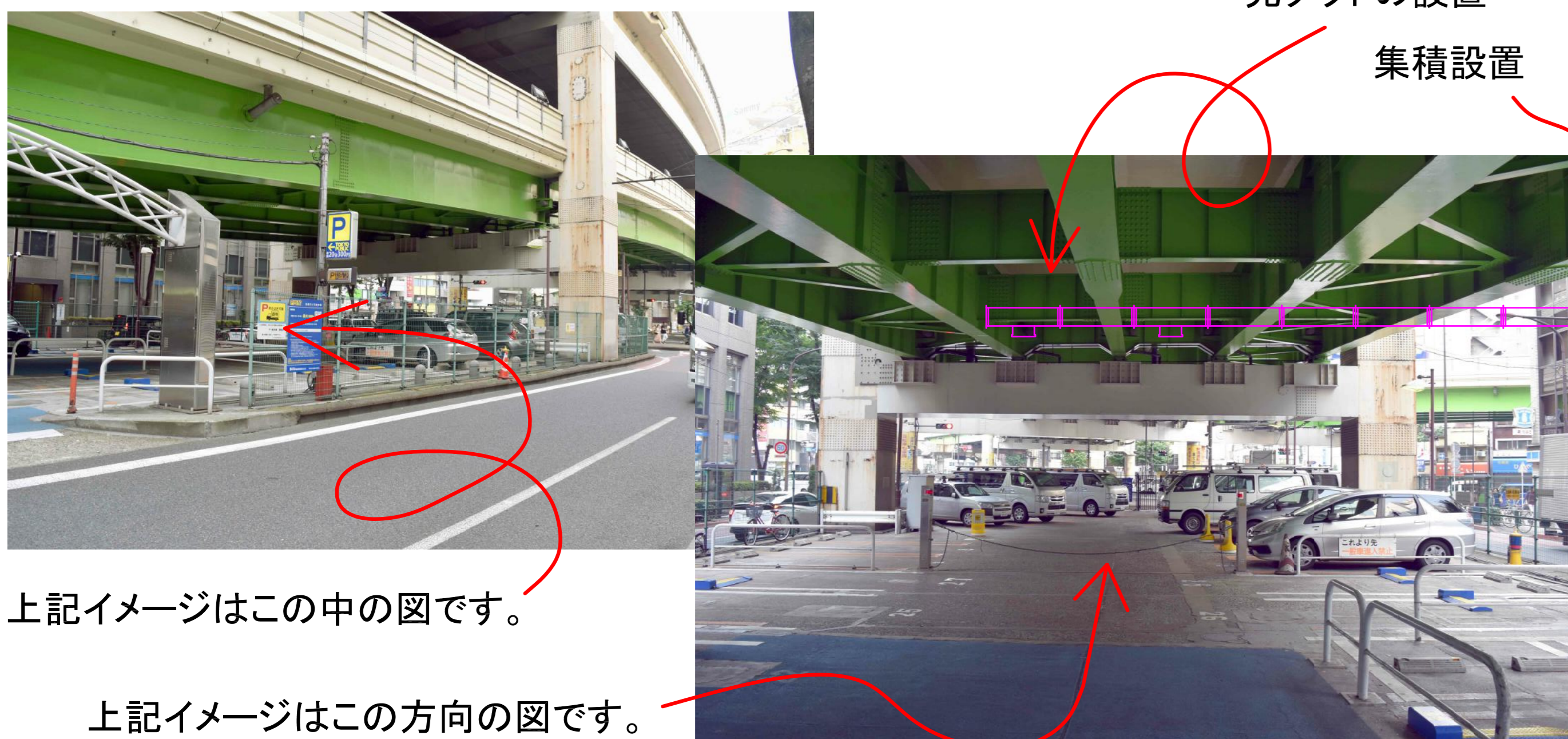




▲Aエリア内高架下の緑化のイメージ



上記イメージはこの中の図です。

上記イメージはこの方向の図です。

Aエリアの提案

この提案は高速道路高架下の活用方法の提案ではなく、高架下の存在の在り方の提案である。高速道路に限らず高架下の空間は間である。都市景観の上で、その間は犯罪の温床になりかねない場所の一つで、放って置くと、落書き、ごみの投げ捨て、ホームレスたちの集落など、人において何かを感じる空間である。――なぜなのか？

その改善方法として、この提案を致します。

- 高架下に光を送る ―― 光ダクトを設置し、高架下に光を送り込む。
- 高架下に水を送る ―― 高速道路上部の排水からの雨水をタンクに集積し、ポンプの圧送によりスプリンクラー噴水などで水を送り込む。

そして、光及び水を得た空間は緑を育てるのに適している。結果として、高架下の緑化が私のテーマになります。緑は人の心を和ませる効果があるが、特に毎年、緑が新しく生え変わるのが良い所だと思う。都市のビルは道路などは年々、劣化していくと対症的に、緑はいつでも生き生きとしており、年々、成長していく。都市には欠かせない美だと思う。

私のAエリアの提案としては、主に高架下の緑化が主題であるが、せっかくなので、イメージ図にはカフェ及びインターネット図書館創設(イメージ内ガラスの建物)を同時に行った。インターネット図書館は、スマートホンのアプリで、貸し出し用の本をダウンロードして貸し出す、新しいタイプの図書館として、場所があまりなくても設置できるのが良い所である。

植栽は主に、光ダクトからの太陽光により、成長を促すが、光が入りにくい場所も考えられるので太陽光発電による植物育成用LED照明を配置し補助する。いうまでもないが、光ダクトはさほどの重量物ではないので、高架の鉄骨に吊りボルト及び吊り金物で簡単に設置できると考える。また植栽用の水はイメージ図には記載されていないが、ゴルフ場にあるようなタイマー式の植物用スプリンクラーなどで、定期的に補給する。

この方式の特徴としては、比較的導入が簡単な事、またメンテナンスがフリーとまでいかないが、植栽を除き、基本的に手入れはあまり必要ない事などが上げられる。但し、わざわざ高架下を緑化するからには、植栽自体の配置など、植栽デザイナーによる、人を魅了する美しい植栽の配置のデザインが、この計画には必要である。